

## 特集 1

# 認定看護師の活動報告 今年度の活動内容をご紹介します

### 倫理推進月間の取り組み

精神医療センターでは毎年9月を倫理推進月間として、各部署で推進に向けた取り組みを企画しています。今年度、認定看護師委員会では以下の取り組みを実施します。

#### ◆取り組み① 倫理カンファレンスの開催

日時：令和7年9月4日 17:30～18:40

場所：7病棟研修コーナー

テーマ：「これは虐待ですか？」

虐待防止チェックリストを使用して、ディスカッションしながら虐待について考えます。

#### ◆取り組み② 倫理カフェのファシリテーター

毎年の恒例、「倫理カフェ」でグループのファシリテーターを担当します。

※「倫理カフェ」とは…倫理推進月間の期間中に、部署を越えて倫理をテーマにディスカッションする集合形式の企画です。自由に意見交換できる場を大切しながら、毎年開催しています。

### 今年度は事例検討会を全8回開催します

3月を除き毎月第1木曜日に実施予定です。

～・～今後の開催日程～・～

| 開催日    | 10月9日 | 11月6日 | 12月4日 | 1月8日 | 2月5日 |
|--------|-------|-------|-------|------|------|
| 事例提供部署 | 2病棟   | 1病棟   | 6病棟   | 5病棟  | 外来   |

#### 参加者からの感想

PNsが前向きになれる姿を見られ、参考にしたいと思いました

病識がない方への対応の困難感について 話し合いたいです

病識がない方への対応の困難感について 話し合いたいです



### 学会のワークショップ企画

「第32回 日本精神科看護専門学術集会in福島」において、ワークショップの企画運営をします。ワークショップとは、現場の多様なニーズに応えられるよう、学術集会の参加者による自主企画です。

今年度は「あっ不穏だ！その時どうする？チームSTEPPSを使ってみよう」をテーマに、「チームSTEPPS」を題材とした企画を運営する予定です。不穏患者対応に「チームSTEPPS」のスキルを活用した、当センターではお馴染みのケア方法を紹介し、実際のブリーフィングを体験できる企画です。当センターの看護実践が、全国の精神科看護実践者にどう映るか、期待が膨らみます。

#### ～ 学会情報 ～

第32回 日本精神科看護学術集会in福島  
開催日：令和7年11月1日（土）～2日（日）  
会場：ビックパレットふくしま（郡山市）





## 認定看護師として、私たちと一緒に看護しませんか??

埼玉県立精神医療センターでは7名の精神科認定看護師が活動しています。  
認定看護師を目指したきっかけについて、インタビューしてみました!



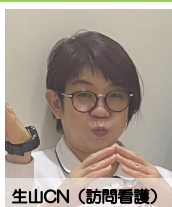
青木CN (薬物療法)

身体科から当センターに異動した当初、精神科のことがわからず、他職種との役割の違いがわからないことに戸惑ったのを覚えています。看護を提供する中で、治療の軸は薬物療法であり、患者さんのその人らしさや自律性の回復には上手に薬剤と付き合っていく必要があることを学びました。処方薬がどのように患者さんに作用しているのか、副作用はどのようにして発生し、患者のADLに影響を及ぼすのかを理解し看護に活かしたいと考えたことがきっかけです。当時の上司の勧めもあり認定看護師を目指すことを決めました。



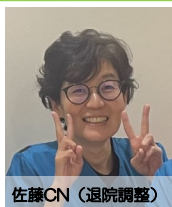
青柳CN (依存症)

第2病棟で勤務していた時、「依存症領域」の資格取得の募集がありました。他の県立病院に異動し、再び精神医療センターに戻って間もない頃で、しかも古巣の依存症病棟に配属となったこともあり、力をつけて看護の質の向上に貢献したいと思いました。当時、世間では依存症看護に関する研修は決して多くなかったので、集中して学べる絶好のチャンスでした。長期研修や受験など、今考えると躊躇してしまうチャレンジにも、なぜか(?)前向きで意欲的な自分がいました。上司や病棟の同僚からも応援していただき、背中を押してもらえたことも大きな支えとなりました。



生山CN (訪問看護)

以前勤務していた病院で「向いていると思うよ」と声をかけてもらい、訪問看護部署で4年間勤務しました。その時に利用者さんから「お金を払っているのだから看護師らしいことをしてほしい」と言われ「看護師らしくってどういう事なんだろう」と心に残りました。当センターで訪問看護領域の認定看護師の存在を知り、上司の勧めもあって目指すことを決めました。過去の経験、新たな知識と経験、仲間との絆を患者家族のため・組織のため・私のためを3本柱にして活動するという思いは変わりません。利用者さんから言われた「看護師らしく」の答えはまだ出てません(笑)



佐藤CN (退院調整)

患者さんの退院後の生活について「社会資源や生活支援とはどういうことか」「その人らしい暮らしとは?」と考えていました。院内の認定看護師が増えており、一緒に学びたいけれど難しそうと感じていました。しかし、認定看護師に声をかけてもらうことがあり、相当悩みましたが退院調整領域の募集を見て「自分に合っているかも。今しか経験できない」と決心しました。当時を振り返ると認定の仲間と働きたい、精神科看護を学びたいと思えたからだと思っています。



石田CN (退院調整)

看護師免許を取得した年から日精看本部研修に参加していました。研修会では必ずと言っていいほど、認定看護師を目指している方がいて、グループワークなどで一緒に学ぶたびに刺激を受けていました。自分もいつかは認定看護師になりたいって思う日が来るかもしれないと思い、研修事後課題レポートを毎回提出して単位だけはとっていました。ちょうど制度が変わるタイミングで多くの研修仲間と認定を目指そうという話になって、認定看護師を目指しました。



小川CN (領域統合)

児童思春期病棟に異動した当初、症状や発達段階に合わせた介入は、どのようなことが正解なのだろう、分からない!と四苦八苦していました。しかし、多職種で1人の患者さんに介入することで、困難な時こそチームで悩みながらも同じ治療目標を持って進むことが大切なのだと、身をもって学びました。チームで介入していても壁にぶつかった時もありますが、ちょうどその頃、認定看護師募集がありました。壁にぶつかっても多職種で関わり、認定看護師として介入の糸口を見つかるお手伝いがしたいと思い、上司からの勧めもあり目指すことにしました。



松浦CN (領域統合)

がんセンターから当センターの依存症病棟に異動し4、5年経った頃、精神科は身体科に比べ治療や回復に明確な答えがない、そのために患者のニーズに応えることができていないと感じました。自分の知識や経験不足を感じ、依存症をもっと勉強したいという願望と、そのためには精神科領域について幅広く学ばないといけないと焦る感覚がありました。認定看護師の教育過程の中で様々な事が学び、学んだことを看護に還元することで患者のニーズに応えられていないと感じていた幻影を払拭できるのではないかと思います。志望しました。今もまぼろしだらけですが…。

お近くの認定看護師にお気軽にご相談ください!

